

(別記様式第 15 号)

令和 2 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

上松町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	令和 2 年度 緩衝帯整備事業 (倉本地区)
事業費		1, 100, 000円 (うち支援金: 688, 000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

上松町は総面積の約 90%を林野(15, 217ha)が占めており、遊休地の山林化等も進み、町内各地でニホンザルやイノシシ等の野生鳥獣による田畑や住家付近での目撃や被害が増加し、住民生活に影響が出ている。

また、森林所有者の高齢化が進み、自ら森林の効率的かつ適正な管理が困難となってきた。

(2) 本事業の目的

農地と山林の境に緩衝帯を整備し、そこを通り道としている野生鳥獣の行動範囲を制限・抑制することで田畑や住家付近に出没しにくくし、目撃や被害の発生を軽減する。

事業内容

(1) 実施場所 上松町倉本地区

(2) 対象者 上松町倉本地区住民

(3) 実施方法 緩衝帯整備 刈り払い機等を使用し、人力での藪払い等とともに、人工林内の枝払い等を合わせ実施する

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画(平成 30~令和 4 年度) 緩衝帯整備 7.0ha

②令和 2 年度実績 緩衝帯整備 0.27ha(平成 30 年度からの累積 1.95ha)



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

緩衝帯整備を行う事で、野生鳥獣の田畑や住家への接近を防ぎ、目撃や被害の増加の抑制が期待できる。

(2) 継続性

整備後の再繁茂については土地所有者に管理をお願いし、緩衝帯整備の効果を持続させる。

(3) 普及性

道路に近い場所において複合的に整備されることで人の目に触れ易く、なおかつ、野生鳥獣の通り道となりやすい場所をなくすことで近隣住民の不安を取り除く効果も期待できる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

山と集落が接近しており、イノシシ、サル等の出没が多く、令和2年度はクマの出没が多かったことから、見通しを徹底してよくしたことで、接近する動物の確認がしやすくなるとともに、動物の隠れ場所がなくなることで、農地への加害獣の出没の抑制が期待できる。

(2) 課題

地域住民による継続的な管理をお願いし、効果の維持を進めているが、住民の高齢化等で維持管理への負担が大きくなっている。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

加害獣の接近を抑制し、被害の防除効果が見込まれることから、今後も事業を継続していく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)